

JOC 議長 B.Bolin 教授より日本 GARP委員会委員長

山本義一教授宛の手紙全文

(1971年2月15日付)

日本の GARP への参加計画が、最近行なわれた第 5 回 JOC 会議において討議されましたので、そのあらましについてお知らせ致します。日本の GARP 委員会によって立案された気団変質の研究計画は、われわれにとって非常に興味あるものでした。JOC はここに提案されたような実験が GARP の重要な sub-programm となるものであると考えて歓迎します。JOC はこのような GARP の sub-programm が実行されるよう勧告しますが、日本海の方が黒潮上の南西諸島附近よりは、このような実験を行なうのにはよりよい場所ではないかということをご提案します。南西諸島領域の方が実験を行なう上においてよりたやすく観測網の整備ができることは確かですが、日本海海上でも生じる気団変質ははっきりしており、heating function を容易に表現することができるということもあるので、JOC としてはここで行なわれた実験は他のどのような場所で行なわれたものよりは、その結果の一般化が容易であると考えます。JOC はまた他の国からの実験への参加を招待するという日本 GARP 委員会の計画に興味を持って注目しています。またこのことは十分に努力に値することであると思われまます。要するに、JOC は GARP の sub-programm として気団変質の研究を行なおうとする日本側の提案を是認し、

この計画を実行するための詳細案が提出されることを興味を持って期待しています。

JOC はまた COSPAR working Group 6 からの日本に昼夜の雲の像を得ることができ、同時に FGGE のための資料収集に利用できる静止衛星を完成させる計画のあることがのべられている報告を非常に興味を持って聞きました。われわれは1976年とその衛星を打ち上げる時期に予定されていると理解しました。JOC はそのような計画の促進を強く激励したいと思います。なぜなら、アジアの経度での静止衛星は FGGE において要求されている衛星による全地球的観測網を完成させることになるからです。静止衛星観測網の完成は GARP 報告第 3 号あるいは、ブリュッセルでの1970年4月の GARP 国際計画会議 (International Planning Conference on GARP) において議論されたように、JOC が現在 1976 年中に開始するよう勧告している FGGE の遂行の時期を決定する重要な要素の一つであります。

日本が GARP の要求に合致させようと努力していると好意的に受け取られているのを耳にしたのは非常に喜ばしいことです。そして、JOC があなたがたの計画について知った時と同じ感激を世界中の同僚がこの計画について知った時に感じることは間違いありません。

シンポジウム「日本の AMTEX (GARP) 計画」

日 時 9月3日(金) 13時

場 所 気 象 庁

座 長 曲田 光夫 相原 正彦

話題提供者

1. 境界層過程の役割
2. 積雲の観測
3. 積雲対流について
4. 中規模擾乱に関する問題点
5. 放射の観測計画

竹田 厚	光田 寧
武田 喬男	藤原 美幸
浅井 富雄	
二宮 悦三	新田 尚
嘉納 宗靖	田中 正之